

Realism for Social Sciences

リアリズムについて——社会諸科学の方法を問い合わせるために（仮）

企画責任者 村田康常（名古屋柳城女子大学）

要旨

21世紀の最初の20年が過ぎた今日、経済学をはじめ、法学、社会学、人類学、経営学、政治学等々、社会諸科学のあり方、広い意味での方法ということが、再び大きな意義を持って問い合わせるべき時代が来ているように思われます。世界はグローバル化と同時に種々価値観をもって多極化し、また科学は細分化すると同時に産業化に曝され、そのような中、個人に根差すとされてきた知は社会の多様な動静に翻弄されて、多様なるものの調和とは何であるのか、その根底から改めて問い合わせなければならない、そのような多くの喫緊のテーマを取り囲まれています。諸科学のあり方を問い合わせる学としての哲学もまた例外ではなく、その問い合わせの方法やそれ自身の知のあり方が厳しい問い合わせに曝されています。

米国同時多発テロで幕を開けた21世紀は、地球温暖化、リーマンショック、フクシマ、民主化、人権、そして今回の新型コロナパンデミックといった問題を私たちに突きつけ、これらを純粋な自然科学、あるいは理想的な観念の問題としてではなく、およそ社会の現実、そのあり方という問題と不可分なものとして問わなければならないと私たちに要請しています。20世紀を経てようやく我々が向き合うこととなった、知ということの、あるべき、新たな、局面と言えるかもしれません。

当該パネル討論会の予定登壇者ならびに企画関係者周辺では、過去数年に渡って上述したような観点から社会諸科学と、哲学、文学、歴史といった文科系諸分野を横断する形でのセミナー、研究会、ワークショップ等を開催してきました。主たる活動は大阪大学の方法論研究会、ジョイントセミナー、数理経済学会方法論分科会、といったところが舞台でしたが、特にシリーズとしてのセミナー「文明と経営」を日本ホワイトヘッド・プロセス学会と共に実施して以降、村田晴夫先生、田中裕先生をはじめ、ホワイトヘッド学会と深くつながる形で、近年の活動を充実させてきました。

前年度より、こうした過去数年に及ぶ一連のセミナーおよび討論の成果を、何かの形でまとめるということが検討され、その中で当初は書籍のタイトルとして、そして更に今年に入ってからは、一層広い分野横断型の領域研究プロジェクト名として、持ち上がって来たのが、“Realism for Social Sciences” というテーマになります。

上述したような社会諸科学の問題、とりわけそれらを横断する知の統合という問題に直面するとき、リアリティあるいはリアリズムという言葉を鍵として、言わばその問い合わせの骨子となるにふさわしい新たなリアリティ概念の探求を目指すことで、多くの対話と協働が可能となるのではないか。このプロジェクトの名称の背後には、そのような願いが込められていると思います。加えて、社会

諸科学にとってリアリティとは何かを問い合わせ直しつつ、ホワイトヘッドも危惧した諸学の専門化と相互の対話の断絶を超えて対話と協働の地平を拓く試みの中では、「多即一」といった考え方、「協働」といった考え方、プロセス、創造性と調和とリアリティという問題が避けがたいものとして立ち現れてきます。このような問題圏を開くこのプロジェクトの主題は、日本ホワイトヘッド・プロセス学会の関心とも、深く関わるところと考えられます。

このパネル討論会では、このような Realism for Social Sciences という研究プロジェクトについて、その意義、可能性、あるべき方向、種々の問題意識との関わり等々を、少なからずこのプロジェクトの立ち上げに関わる各登壇者個々の立場から、所論や意見、あるいは問い合わせ合いといったことを通じて明らかにしていきたいと思います。リアリティとは何かを問い合わせ直すような、哲学ならびに社会諸科学の対話と協働の場を開くことが、このパネル討論会の目的です。また、それを通じて、多くの方々にこのプロジェクトを知っていただき、また新たに興味を持って頂けたらと願っています。

きわめて学際的な主題を掲げるこのパネル討論会は、日本ホワイトヘッド・プロセス学会とともに、上記の問題意識を共有する方法論分科会の母体である数理経済学会との共催による企画として実施することを準備しております。このパネル討論会の企画を日本ホワイトヘッド・プロセス学会第42回全国大会にて実施することをお認めいただきたく、申請いたします。

なお、パネル討論会の開催形式は、現今の新型コロナ感染症拡大の状況を鑑みて、オンライン開催を希望いたします。もちろん、原則として全国大会の開催形式に合わせますが、万一、参考しての会議になる場合は登壇者のオンラインによる参加についてご配慮をいただきたく、お願ひいたします。パネルの時間は、大会プログラムに支障のない範囲で 150 分（75 分×2）+休憩 10 分ないしは 120 分（60 分×2）+休憩 10 分を希望いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

登壇予定者 (*兼司会者)

浦井憲（大阪大学）、葛城政明（大阪大学）、塩谷賢（早稲田大学）、竹内惠行（大阪大学）、田中裕（日本ホワイトヘッド・プロセス学会会長）、田村高幸（千葉大学）、三井泉（日本大学）、*村田康常（名古屋柳城女子大学）、守永直幹（宇都宮大学）

進行補佐・記録係

村上裕美（関西学院大学）

共催コーディネーター

浦井憲（大阪大学）

企画責任者

村田康常（名古屋柳城女子大学）